

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

2019/12/1
No.661
大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝



松扉山 本泉寺 住職：若松 高

沿革 住所：大阪府四條畷市部屋本町11番32号

松扉山本泉寺の源流を辿れば、嘉吉2年（1442）に、蓮如上人の叔父・如乗によって加賀国河北郡二俣（石川県二俣町）に創建されたことが始まりでした。

蓮如上人は、北陸を浄土真宗の里にしようと願われ、次男の蓮乗・七男の蓮悟・十男の實悟を派遣し、蓮如上人の願い通り、北陸一帯に念仏の音が満ちるようになりました。しかし、同時に大きな武力を持った武士たちも本願寺門徒に加わるようになり、守護大名・戦国大名との間に争いが生じるような状況下において、長享元年（1487）には、坊舎に留守職をおき、本泉寺の本拠を金沢・若松の地に移しました。歴史上、若松本泉寺と呼ばれています。その若松の地へ移転してから44年後の享禄4年（1531）、今度は本願寺門徒の中での争いが起こり、本泉寺は敗れ、一夜にして焼け野原になってしまいました。住職の蓮悟は逃れましたが、最後は大坂・堺の地で76歳にして亡くなりました。

その後、蓮悟の亡くなられた大坂天満樋上町に實悟の孫・教恵が若松本泉寺を再興され、四條畷部屋へと移り、現在に至っています。

若松住職は、「お寺を護持しつつ、PTA・自治会・子ども会といった地域活動に携われ、会話の中で自身が住職であることを知ってもらう機会もあって、それが縁でお寺に身を寄せてくださる方もおられます。お寺の行事としては、尼講が正月・盆には皆で参られ、また尼講の別れの際には女性のみでお別れをされます。今後、お寺が減少していくことが考えられるなかで、真宗大谷派の空白地ができないように考えていかなければならない」と教化へのおもいを語られました。

法要・行事予定

12月	
12日	闍如上人御逮夜・常永代経（午後2時）
13日	闍如上人御命日 兼日中（午前8時）
21日	天満別院合唱団『みのり』（午後2時） 指導 村上奈津子師（第13組超願寺住職）
24日	年末すす払い奉仕（午前10時） 定例法話（午後1時30分） 間口美代子師（第12組方廣寺）
27日	宗祖聖人御逮夜（午後2時）
28日	宗祖聖人御命日 兼日中（午前8時）
31日	歳末昏時勤行（午後3時）
※ 今月の同朋の会、正信偈書写の会はお休みとさせていただきます。	

1月	
1~3日	修正会（午前8時） ※1日 年頭挨拶 天満別院輪番 武宮信勝
4日	如信上人御祥月御命日（午前8時）
12日	同朋の会（午後2時） 建部智宏師（第7組教應寺住職） 闍如上人御逮夜・常永代経
13日	闍如上人御命日 兼日中（午前8時）
15日	嚴如上人御祥月御命日（午前8時）
18日	天満別院合唱団『みのり』（午後2時） 指導 村上奈津子師（第13組超願寺住職）
19日	覺如上人御祥月御命日（午前8時）
24日	正信偈書写の会（午前10時） 定例法話（午後1時30分） 今井健太郎師（第13組常稱寺住職）
25日	法然上人御祥月御命日（午前8時）
27日	宗祖聖人御逮夜（午後2時）
28日	宗祖聖人御命日 兼日中（午前8時）

◆特別永代経志納

一、法名 願行院釋尼孝喜

大阪市北区
袋井満子殿

右記の通りご進納有難く
ご披露いたします。

別院崇敬護持のため、
大切に使用させていただきます。

今月の伝道揭示板

本当のことが
わからないと
本当でないものを
本当にする

— 安田 理深 —

12月を師走と呼びますが、語源は諸説あり、正確な語源は未詳のようです。私は「僧がお経をあげるために東西を馳せる月」という説をもとに字があられたと聞いております。何事においても教え伝えが諸説あることがあります。ふと思いましたが、それがいかに正しくても、諸説あることを知る人と、そうでない人の差は大きいということですね。師走にあたり、そのようなことを思わせていただきました。

本山（東本願寺）御用達
(株)平安法衣店

〒600-8153
京都市下京区東町本願寺大門前
電話 (075)-351-3681
FAX (075)-351-5563

株式会社 太田石材店

本社
〒536-0001 大阪府城東区古市1丁目23番20号
TEL(06)6930-5075 FAX(06)6930-5078

工場
〒536-0017 大阪府城東区新喜多東1丁目8番2号
TEL(06)6968-8111 FAX(06)6968-8805

<http://www.otasekizaiten.co.jp/>

4

◆御正忌報恩講 団体参拝

天満別院門徒会では、11月23日、午前8時に別院を出発し、御正忌報恩講の日中法要に団体参拝をいたしました。この日は天気もよく暖かい一日でした。日中法要には、今年で最後となります御門首のお姿を拝見することができました。昼食後には、紅葉の深まる親鸞聖人ゆかりの地、岡崎別院へ参拝し、蓮如上人ゆかりの地でもある山科別院へも参拝しました。ご門徒の皆様からは「こんなに立派な別院が街の中にあることを知らなかった」、「他の別院へなかなか行く機会がないので、今回参拝できて本当によかった」などの感想を聞くことができました。



天満別院ご門徒・職員 参加者16名

◆子どもが集うお寺に なるために!!

別院では、今年7月より真宗大谷派企画調整局 寺院活性化支援室ご協力のもと、テラススクール開設に向けて取り組んでおります。天満別院は街の中心にあり、人は多く行き交うけれど、なかなか参詣に来る人はいないという問題を抱えています。

その中で、今取り組んでいることは「子どもたちがお寺に気軽に足を運んでいただくには何ができるか」ということです。まだまだ実現に向けては前途多難でありましようが、子どもの笑顔が溢れるお寺になるようにしっかりと話し合っていると思います。



天満別院 テラスクール 話し合いの様子

◆定例法話の報告

11月24日、御講師に12組清澤寺住職 澤田見師をお迎えし、講題「手を合わせるということ」についてお話をいただきました。

師からは、「亡き人の法事を勤める際、施主を中心に取りまとめをされますが、法事は亡き人から法縁をいただき、亡き人を案ずる私が亡き人から案ぜられていることに気づくことが大切であって、信心をいただく、念仏申すということは何も自身の心がしていることだと思えますが、そうではなく自然と手が合わさっていくことでしょう。また、『手を合わせるということ』は、本来は『手が合わさっていくということ』でありま



第12組清澤寺住職 澤田見師

◆年末すす払い奉仕のお願い

・定例法話開催のお知らせ
左記の通り、来る新年に向けて、ご門徒の皆様と共に年末すす払い奉仕にお手伝いをお願いいたします。また今年度から12月にも定例法話がございしますので、引き続き、ご参拝いただければと思います。皆様お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

記

年末すす払い奉仕

日時 12月24日(火) 10時
場所 天満別院本堂
服装 汚れても構わない服
※昼食をご用意しております。

定例法話

日時 同日(火) 13時30分
場所 天満別院本堂
御講師 第12組 方廣寺 間口美代子師

※ 12月の同朋の会・正信偈書写の会はお休みとさせていただきます。

Q&A

どうしてなのかな?

第8回

ちまたでは朱印帳がはやっていますが、真宗系のお寺に朱印がないのはなぜ?

「大事なことはお寺にお参りしたことがあるかどうかではなくて、教えに出遇ったかどうか、また、どんな教えに出会ったかということであるはずです」(抜粋)と。

答え



近年、有名な神社仏閣に参詣した証として朱印を集めることで、「これで何箇所お参りできた」と楽しみにされている方が多いようです。

このブームについて、大谷大学の一楽先生は、そういう達成感を味わうのが仏教の本来の目的ではないと指摘くださっています。

親鸞聖人は苦悩に満ちた人生の中で、煩惱に翻弄されるわが身を救わずにおれない阿弥陀仏の世界、「ただ念仏」の教えに法然上人によって出遇われたのです。しかし、『歎異抄』第九章にあるとおり、大切なことをたちまち見失い、教えに出遇った喜びも束の間の自分自身にもお気づきになっておられました。ゆえに、聴き続けることが大事になってくるのです。その、聞法道場としての役目が真宗のお寺にはあるのです。朱印を押してもらって満足する場ではなく、腰を落着けて仏法に耳を傾けていただく場が真宗のお寺なのです。

(第15組 西稱寺 宮部 渡)

輪番雑感

「紅葉に如是我聞」

輪番 武宮 信勝

色鮮やかな紅葉は、人の心に何を語りかけているのでしょうか?

「青色青光・黄色黄光・赤色赤光・白色白光・微妙香潔」

『仏説阿弥陀經』

今、私はその意味を次のようにいただいて見た。世の中には、沢山の生物が存在している。その存在している一つひとつには、誰にも代わることも代わってあげることもできない色と輝きがある。実に不可思議にしてその香りは清らかなことであろうか!

大事なことは、光が当たらないと輝きが見えないことである。光とは一般的には太陽とライトアップに代表される照明であるが、それは表面だけを映し出すことはできても内面は隠れてしまう。仏の光は光明と表現され、光明は仏の智慧となつて見えてないものを見せていただく、見えざるものの眼をひらき、見えざる人を招喚までしてくださっていることに気づくことではないでしょうか。

では見えてないものとは何か。それは如来の智慧に依って、赤裸々なる自分の本質・本性の姿。

如来聖人は「愚禿」「凡愚」として、どこまでも罪惡深重煩惱熾盛の凡夫としての身を受容された。

聖人の御忌(11月28日)

758年をお迎えし、

― 勿体なや、 祖師は紙衣の九十年―

(句仏上人)

と詩われたお心を今一度わが身に照らし、日頃の生きざまに慙愧の念をいだこう。それにしても下から眺める紅葉は誠に綺麗で感動しますが、落ち葉となった一葉一葉をそっと手に取って見たら、小さなキズ、穴のあいてない葉を捜すのは容易なことではありません。是非体験してみてください。

この一年、

悔いなしと散る落ち葉かな

私達一人ひとりの人生を象徴する詩であります。何一つ無駄なこととは一つもない。ひとえに本願をたのみ、よきこともあしきことも、業報にさしまかせて歩いていきましよう。